

3-4. 報告書作成変更

- ・ 3-1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。
- ・ 分析結果報告書メニューには、入力状態とチャート状態が表示されています。

報告書一覧表				
	名 称	入 力 状 態	チャート状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]土壌試料(カドミウム、銅)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[2]土壌試料(カドミウム、銅)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[3]土壌試料(砒素)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[4]底質試料1(PCB)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[5]底質試料1(PCB)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[6]底質試料2(有機塩素化合物)	未入力	無し	

図 3-4.1 分析結果報告書メニュー画面 報告書一覧

入力状態について

- 「未入力」 : まだ入力が行われていない状態です。
- 「入力中」 : 入力が途中まで行われている状態（一時保存されている状態）です。
- 「確 定」 : 入力が確定した状態（変更できない状態）です。

チャート状態について

- 「無し」 : チャート類のファイルが送付されていない状態です。
 - 「送付済」 : チャート類のファイルが送付されている状態です。
- チャートの送付については、「3-7. チャート類の送付と確認」を参照して下さい。

- ・ 分析結果報告書メニューから入力しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書作成変更」をクリックすると別画面にて「報告書作成変更画面」が表示されます。

環境測定分析統一精度管理調査システム - Microsoft Internet Explorer

一時保存 前ページ 次ページ 1 / 2 ダイレクトジャンプ

報告書1のページを一時保存しました。

分析結果報告書[1] 1/4

1.1 土壌試料(カドミウム、銅)

カドミウムと銅の2項目を同じ方法で測定した場合には、分析結果報告書[1](カドミウム、銅)に記入し、分析結果報告書[2]は記入しなくてもよい。カドミウムと銅をふたつの方法で測定した場合には、一方を分析結果報告書[1]に、他方を分析結果報告書[2]に記入する。

電話番号	<input type="text"/>
分析主担当者名	<input type="text"/>
分析主担当者の経験年数	<input type="text"/> 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	<input type="text"/>
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	-未選択-

<分析結果>

回数	分析結果(mg/kg) 注1)	注2)	
		検出下限値以上	検出下限値未満での検出下限値 注3)
カドミウム	1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
銅	1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。
「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。
ただし、分析を実施していない項目では、「9999」を記入する。

<分析方法等:カドミウム>

分析開始月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析終了月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析方法	-未選択- その他(<input type="text"/>)
使用した水	-未選択- その他(<input type="text"/>)

図 3-4.2 分析結果報告書作成変更画面

・入力方法は、「2. 記入方法」に従って下さい。また、各分析結果報告書の共通事項を記します。

表 3-4.1 各分析結果報告書の共通事項

分析主担当者	全角入力。実際にその項目の分析を手がけた人の氏名（複数で分析を行った場合は主として実施した人の氏名とする。ただし、分析結果報告書 [4]、[5] の底質試料1（PCB）については、「前処理」、「GC/ECD 又はGC/MS操作」の操作ごとに手がけた人の氏名を記入する）。
分析主担当者の経験年数	数値（半角）入力。該当項目の記入時点での分析業務経験年数を整数（四捨五入による）で記入する（分析結果報告書 [4]、[5] については、分析操作ごとに底質試料1（PCB）の分析に携わった経験年数とする）。
分析主担当者の実績 （年間の分析試料数）	数値（半角）入力。分析主担当者が昨年度1年間に分析を行った環境試料の該当項目のおよその試料数を記入する（分析結果報告書 [4]、[5] については、分析操作ごとに底質試料1（PCB）の分析に携わった試料数とする）。
分析（主）担当者以外の分析結果の確認	分析結果報告書の作成にあたって、分析（主）担当者以外の分析結果確認の有無を記入する。

- ・各分析結果報告書の入力項目の詳細は、「4. 各報告書の詳細」を参照して下さい。

・操作ボタンについて

「一時保存」：現在入力中のページを一時保存します。

「前ページ」：前ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：現在入力中のページを一時保存し、指定したページ番号に移動します。

上記の操作を行うと、操作ボタンの下のメッセージエリアにアナウンスが表示されます。

・入力操作が終わりましたら、一時保存を行った後に、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックし入力画面を閉じます。



図 3-4.3 分析結果報告書作成変更画面 閉じる

・分析結果報告書メニュー画面の報告書一覧の入力状態が「入力中」と表示されます。

※ 入力の途中であったり、後で追加記入や修正を行う場合には、「一時保存」をすることができます。「一時保存」することによりデータベースに入力データが保存され、次回入力画面を開いた時には自動的にそのデータが読み込まれます。これにより、複数日にわたっての記入が可能です。「前ページ」「次ページ」「ダイレクトジャンプ」ボタンでページを移動するときには入力したデータが自動的に一時保存されますが、入力画面を閉じる際やコンピュータをシャットダウンする際などには自動的に一時保存はされません。また、入力画面を開いたまま、一時保存、前ページ、次ページ、ダイレクトジャンプ、ユーザ情報変更、パスワード変更など、サーバからデータを読み込むあるいは書き込む操作をせず 24 時間経過しますとサーバとの接続が切断され、自動的にログアウトされます。一時保存は入力中いつでも行えますので、ある程度データを入力なさった段階で、一時保存を行うようにして下さい。

※ 提出期限を過ぎると入力できなくなります。

※ 参加者専用ページへのログインは、1つの分析機関に対して複数人のログインが可能です。その際は一番最後に保存した人のデータが優先されて保存されますので注意して下さい。(例えば、〇〇〇機関に対して、3台の PC で A さん、B さん、C さんの 3 人の方が同じ時間帯にログインして報告書の入力作業が行えます。A さん、B さん、C さんの順番で保存処理を行った場合は C さんの入力内容が優先されて保存されます。)

3-5. 報告書確認表示

・3-1でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。(図 3-4.1 参照して下さい。)

・分析結果報告書メニューから表示しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書確認表示」をクリックすると別画面にて「報告書確認表示画面」が表示されます。

統一精度管理調査システム - Microsoft Internet Explorer

次ページ 1 /2 ダイレクトジャンプ

分析結果報告書[1] 1/4

1. 1 土壌試料(カドミウム、銅)

カドミウムと銅の2項目を同じ方法で測定した場合には、分析結果報告書[1](カドミウム、銅)に記入し、分析結果報告書[2]は記入しなくてもよい。カドミウムと銅をふたつの方法で測定した場合等には、一方を分析結果報告書[1]に、他方を分析結果報告書[2]に記入する。

電話番号	
分析担当者名	
分析担当者の経験年数	()年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	

<分析結果>

回数	分析結果 (mg/kg) 注1)	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
カドミウム	1回目		
	2回目		
	3回目		
銅	1回目		
	2回目		
	3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。
「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。
ただし、分析を実施していない項目では、「9999」を記入する。

<分析方法等:カドミウム>

分析開始月日	()月()日
分析終了月日	()月()日
分析方法	
使用した水	

<分析方法等:銅>

分析開始月日	()月()日
分析終了月日	()月()日
分析方法	
使用した水	

1. 試料液(0.1mol/L塩酸溶出液)の調製

<3回の併行のために下記の<試料液の調製>以降は1~3回で概略同様であり、1回目の条件を記入する>

<試料液>

容器	種類	容量
試料(土壌)量		
0.1mol/L塩酸	種類	
0.1mol/L塩酸	使用量	

注1) 濃塩酸等を使用して調製した場合には、「12mol/L」のように記入する。

<振とうまでの放置時間>

試料液の調製から振とうまでの放置時間	()時間 注2)
--------------------	-----------

注2) 試料液の調製後直ちに振とうした場合には0(ゼロ)時間とする。
時間単位で記入する(例えば、30分では0.5時間とする)。

図 3-5.1 分析結果報告書確認表示画面

- 操作ボタンについて

「前ページ」：前ページがある場合、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：指定したページ番号に移動します。

- 各分析結果報告書の内容の確認が終了したら、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックして、分析結果報告書メニューへ戻ります。

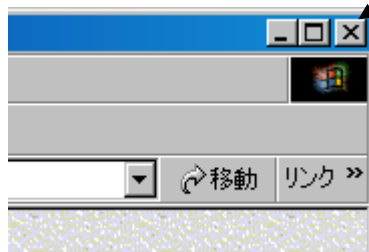


図 3-5.2 分析結果報告書確認表示画面 閉じる

- 印刷について

各種分析結果報告書の印刷は、ブラウザの基本機能で実現されます。方法は、「3-6. 報告書の印刷」を参照して下さい。